

住み慣れた自宅に戻ること、暮らし続けることを支える拠点

「にちこれ」

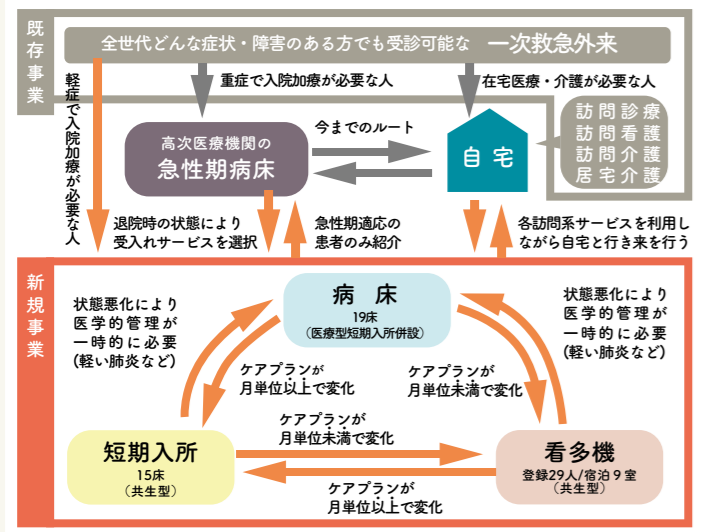
～「日日は好日」な暮らしと地域をめざして～

1 地域の安心を支えてきた救急専門クリニック

私たちは、救急車出動件数が国内トップレベルだった松阪市の要請に応え、一次救急専門のクリニックとして事業をスタートしました。「最後まで笑顔で生きられる街を創る」という理念のもと、訪問診療、訪問看護、訪問介護、居宅介護支援も併設し、地域（自宅）での暮らしをサポートしてきました。（既存事業も元パチンコ屋を改修（一期工事・助成申請外）する診療棟に2023年秋移転予定。）

2 病床・看多機・短期入所の組合せでいち早く暮らしの場へ

業務の中で、高齢者が入院すると自宅に戻りたくても戻れないケースがあまりにも多く、多死社会を目前とした今、自宅に戻り・住み続けられる地域の実現が急務であると考えます。本計画では「病床(医療型短期入所)」、「看護小規模多機能居宅介護(共生型)」、「短期入所生活介護(共生型)」を複合した施設を新築します。この組み合わせによって、医療依存度や介護度の変化に柔軟に対応する仕組みとなり、病院からいち早く暮らしの場へ戻り、安心して暮らし続けることを可能にします。



3 障害のあるひとたちも受け止める

またこの仕組みは、高齢者だけでなく、松阪市に圧倒的に不足している医療的ケアが必要な子どもや成人のかたの通所や宿泊にも対応でき「どんな年齢や症状、障害、状況でも安心して自宅で暮らせる地域」を、より解像度高く実現します。

- 短期入所の対象者**
 - レスパイトが必要な要介護者
 - レスパイトが必要で、0-64歳の医療的ケアが必要な方(共生型)
- 病床の対象者**
 - 在宅療養中に一時的な加療が必要になった方
 - 遠隔医療に、家に帰る準備や練習が必要な方
 - 0-64才の医療的ケアが必要な方(医療型短期入所)
- 看多機の対象者**
 - 在宅高齢者など介護ニーズが多様な方
 - 身体的な介護処置が必要な高齢者
 - 19-64才の通所ケアが必要な障害のある方(共生型)

4 地域のケア力(自然と手を差し伸べることができる力)を高める

敷地は松阪市中心部の南西に位置し、和歌山街道(松阪市の東西を結ぶ国道)を介して旧松尾村地域や松阪市内全域と繋がっています。地域住民が立上げたコミュニティタクシーと路線バスの停留所があり、集落や小学校、大型スーパー等と繋がりが地域のハブとなるポテンシャルを持った場所です。施設には地域の人も過ごせるカフェを併設し、常駐する医療介護の専門職に気軽に相談できます。また医療や介護に関するイベントや、地域の専門職をつなぐ会合の実施等を通して地域のケア力を高め、より安心して暮らせる地域づくりを目指します。

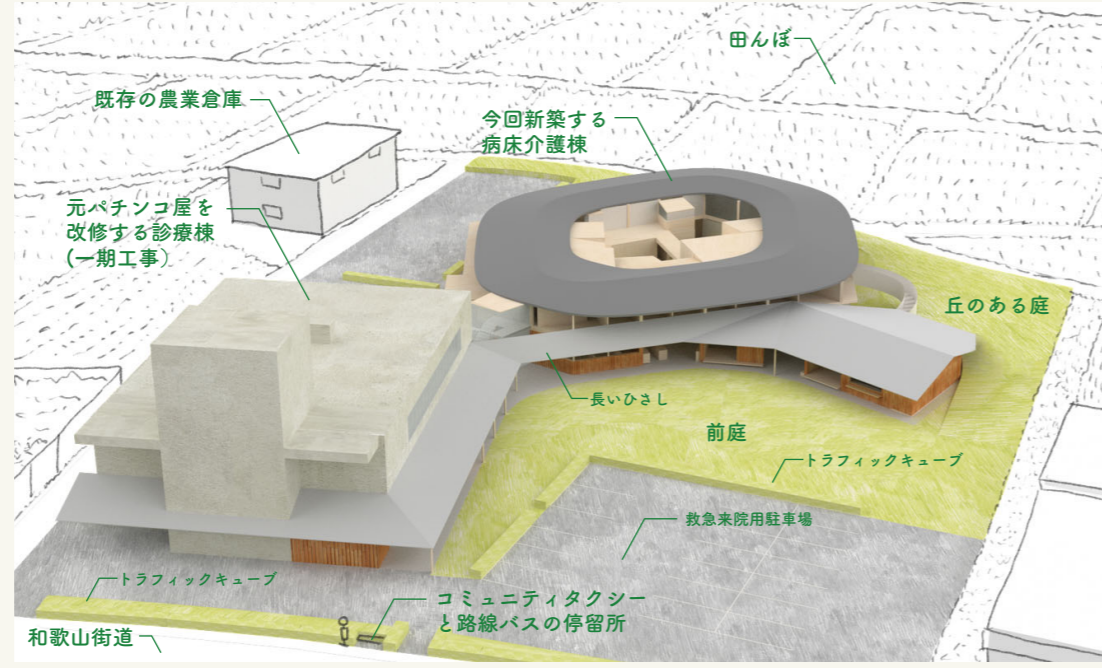


5 自分らしく居られる地域を目指す

私たちは「にちこれ」の計画を通して、地域の方やスタッフも含め、どんな人でも、どんな状況でも、その日その日が「好日」だと思えるような、誰もが自分らしく居られる地域づくりに取り組んでいきたいと考えています。

1 元パチンコ屋の敷地を活用した全体計画

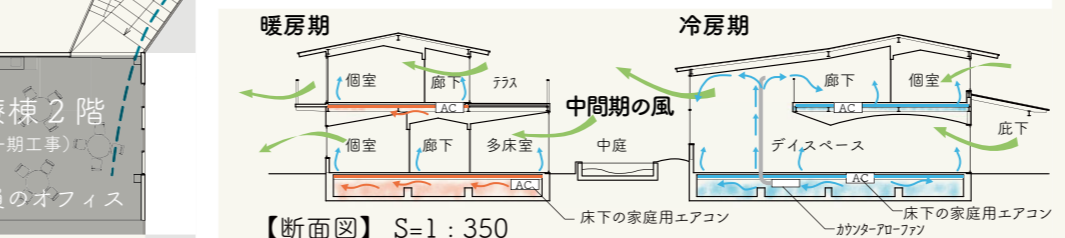
元パチンコ屋は診療棟に改修(一期工事・助成申請外)し、1階を救急外来、2階を医師、看護師、介護職、事務スタッフなど全職員のためのオフィスとしています。駐車場のアスファルトを半分はがして緑化するとともに、その中に病床介護棟を新築。全体は「長いひさし」でつなぐ計画です。



【1階平面図】 S=1:300

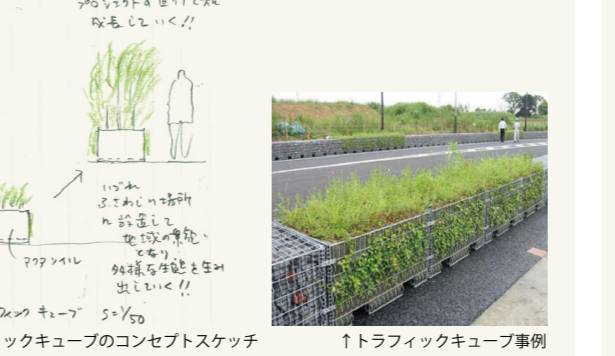


【2階平面図】 S=1:300



3 その場所らしい風景を再生するランドスケープ

道路/駐車場/建物間に緑地をとり、地域性種苗の混植、解体アスファルトの活用等を通して、和歌山街道沿いに市街化調整区域らしい風景を再生します。また移動可能な植栽ボリューム「トラフィックキューブ」で将来の駐車台数の変化や増築等、土地利用の変化に柔軟に対応するランドスケープ計画です。



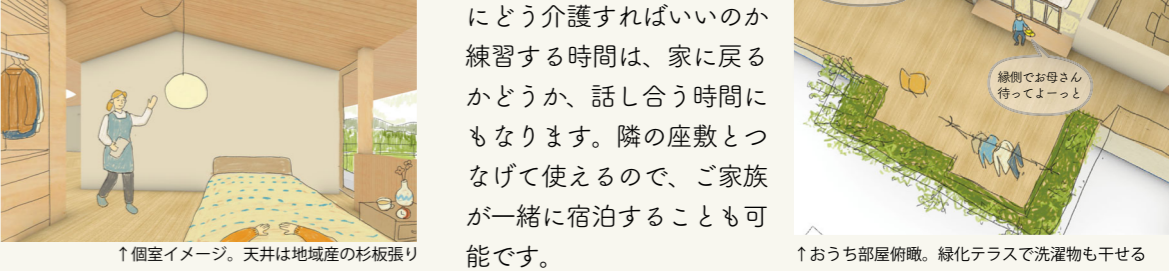
4 寝たきりでも移動が楽しい回遊性のある空間

リハビリを兼ねて施設全体を散策できる回遊性の中に、立寄り地となる小さな共有部が点在します。回遊する空間は天井の起伏や素材、中庭や外部への視線の抜けによって、陰影や空間が変化し、バギーやベッドで移動する寝たきりの人にとっても空間を楽しめるデザインを目指します。



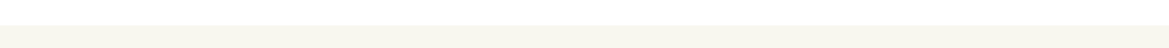
5 利用者もスタッフも快適に過せるプラン形状

各居室を全て外周に配置/隣接する建物を避けて部屋からの眺めを確保/診療棟2階のオフィスと接続するために診療棟に近接/前庭をなるべく広く取り、各部屋の前にも気持ちの良い広をつくるなど、利用者やスタッフがなるべく快適に過ごせるよう、様々な要件のせめぎあいを受け止めたプラン形状となっています。



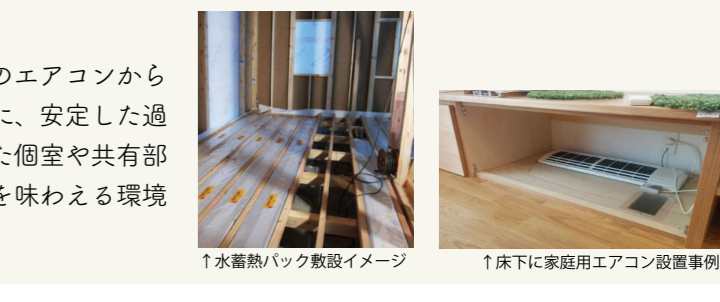
6 地域を感じる内装

各居室やリビングなどの共有部の内装や建具、家具などに、紀伊山地で採れる杉やヒノキを使用し、馴染みがあって居心地の良い、落ち着いた空間を目指します。



7 家族の安心をつくる「おうち部屋」

自宅に戻りにくい大きな原因の一つである家族の不安を解消するため、住宅と実際に設える部屋を用意。実際にどう介護すればいいのか練習する時間は、家に戻るかどうか、話し合う時間にもなります。隣の座敷とつながって使えるので、ご家族と一緒に宿泊することも可能です。



9 プライベート⇄パブリックのグラデーションのなかで見つける自分らしく居られる場所

「自分の居場所」だと感じられる個室(プライベート)や小さな共有部(セミプライベート)から、利用者同士が交流し日中の活動を行えるデイスペース(セミパブリック)、地域住民や社会とのつながりが感じられるカフェ(パブリック)まで、施設内には開き方や大きさの違う様々な場所が用意されています。一人でいたい時、ふたりで打ち明け話したい時、わいわい楽しく過ごしたい時、その時の気分ややりたいことに合わせて、自分らしく居られる場所がきっと見つかります。

セミプライベート

【数人のセミプライベート空間】共有リビング・ダイニング・座敷など2~5人のグループ※がつくりやすい空間があることで、お互いの悩みを聞き合う役割が発生しやすく、安心を得られる小さな拠点をつくりやすくなります。この空間は施設内に点在し、他の利用者も施設内散歩で立ち寄れるのよきにも配慮。ここで過ごす人たちの気配や物音が、各個室にも「暮らしの気配」として感じられるような計画とします。

セミパブリック

【利用者の集うセミパブリック空間】デイスペース 看多機、病床や短期入所の全利用者が、食事や日中の活動を行える場所です。症状や年齢にかかわらず、一緒にいることのできる場を目指します。デイスペースでは、大きなワンルームではなく、小さなスペースが連なり、そのときにやりたいこと、得意なこと、ただその場にいること、あるいは興味がある出来事に巻き込まれることで、施設内での社会的役割のあるコミュニケーションが発生しやすくなり、生きる活力を得るきっかけを作っていきます。「小上りホール」は時間帯によって放課後の子どもの居場所づくりや、子育て相談室、利用者家族同士の交流等が行われ、地域の人や子どもたちとの接点が施設内に入り込んでくるような形を考えています。

パブリック

【地域住民も集うパブリック空間】カフェ/つながるテラス/庭 施設利用者や家族、地域住民、スタッフなど誰でも利用でき、カフェでは高齢者や障害のある方でも就労が可能です。また、ここはケアをする場でも受ける場でもなく、すべての利用者がフラットでいられる場であり、介護の相談、子ども食堂の運営、地域の専門職がつながる場でもあります。デイスペースとは「つながるテラス」を介してつながり、施設利用者がカフェに来たり、地域の方が施設内に入る状況もあります。そのような状況のなかで施設内/外の境界が揺らぎ、自然と高齢者や障害のある方が日常となることで、地域住民の理解を促し「困っている方に自然と手を差し伸べることができる力=地域のケア力」の向上を促進します。